

2010 - 8月以降の遺伝的能力評価に係る変更点

1 遺伝的能力評価成績の公表回数及び評価時期、公表の方法等

- (1) 遺伝的能力評価を行う時期等を以下のように変更します。ただし、5月及び11月の国内雌牛については泌乳形質等^{*}を対象に評価を行います。

※泌乳形質等：乳量、乳成分量（率）、体細胞スコア、泌乳持続性、乳代効果、総合指数（過去に体型形質の評価が行われている雌牛）

国内種雄牛：年2回（2月、8月）

国内雌牛：年4回（2月、5月、8月、11月）

2月、5月及び11月は最終火曜日、8月は第1火曜日を公表予定日とします（ただし、休日等の場合は翌日）。

海外種雄牛：年3回（4月、8月、12月）

4月及び12月は第1火曜日、8月は第2火曜日（2010年8月は第3火曜日）を公表予定日とします（ただし、休日等の場合は翌日）。

なお、従来は評価時期をローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）で表していましたが、今後は国内、海外を付し「年月」で表します。

- (2) 公表の方法等を以下のように変更します。

① 乳用種雄牛評価成績（赤本）

国内種雄牛の評価成績公表に合わせて年2回発行します。なお、2月分の赤本には海外12月分を、8月分の赤本には海外8月分を掲載します。

② 牛群改良情報（牛群検定事業で提供）

国内雌牛の評価成績公表に合わせて年4回発行します。

③ 家畜改良センターホームページ

国内種雄牛、海外種雄牛、国内雌牛の公表に合わせて掲載します。

④ CD-ROM

国内種雄牛と海外種雄牛を区分し、各々の公表に合わせて有償配付します。なお、インターブルが行う国際評価において、国内向け公表対象となった海外種雄牛全てを掲載します。

⑤ 乳用牛評価検索システム

国内種雄牛と海外種雄牛を区分し、各々の公表に合わせて掲載します。

なお、上記①、③及び⑤に掲載する海外種雄牛については従来同様下記基準を満たす種雄牛とします。

- ・泌乳形質（milk/fat）の信頼度が75%以上、かつ、体型形質（overall conformation）の信頼度が60%以上の国際評価値

- ・ 10歳未満、または、15歳未満で直近までに輸入実績のあるもの
- ・ BLAD 及び CVM 検査済の種雄牛（家畜精液輸入協議会を通じて BLAD 及び CVM 検査結果を確認出来た種雄牛）

(3) 国内の種雄牛評価と雌牛評価を以下のように区分します。

① 種雄牛評価（2月及び8月に実施）

ア 泌乳形質

従来、雌雄同時評価と呼んでいた、評価精度を高めるため評価に用いる記録を限定していた手法により得られた種雄牛の評価結果を公表します。

イ 体型形質

従来の「初産記録を用いた単形質評価」から得られた種雄牛の評価結果を公表します。

② 雌牛評価

ア 泌乳形質（2月、5月、8月及び11月に実施）

従来、雌牛再計算と呼んでいた、より多くの雌牛を評価対象とするための手法により得られた雌牛の評価結果を公表します。

イ 体型形質（2月及び8月に実施）

新たに開始する「初産と2産以降の記録を用いた2形質評価」から得られた雌牛の評価結果を公表します。

2 評価対象牛の拡充

(1) 分娩難易

分娩難易に係る遺伝的能力評価は、後代検定候補種雄牛を交配し受胎したホルスタイン種雌牛の初産分娩記録を用いており、当該種雄牛の「産子の父」としての効果を表しています。ところが、国内ではホルスタイン種未経産牛に肉用牛を交配するケースが多く見られ、評価に必要な記録を早期に十分得ることができません。このため、2産以降の記録を用いた分娩難易評価値や他の形質との相関関係をもとに初産時の分娩難易を予測し公表することとします。したがって、今後、後代検定を終えた候補種雄牛が検定済種雄牛として選抜されるタイミングには、全ての種雄牛の分娩難易が公表されることとなります。

(2) 体型形質

体型形質に係る遺伝的能力評価は、雌牛の初産審査記録を用いています。このため、2産以降の審査記録しか持たない雌牛は遺伝的能力評価の対象外でした。しかし、遺伝的改良をより推進する観点から、これら雌牛も「雌牛評価」の対象に加えることとします。

なお、現状では、牛群検定参加牛のうち審査記録を持つ雌牛は半数にも満たないことから、体型形質に係る遺伝的改良促進のためには、体型審査のより一層の拡充が望まれます。

(3) 泌乳持続性

粗飼料利用性の向上や繁殖性の改善が期待されるとして泌乳持続性が着目されています。このため、先行して公表していた種雄牛に続き雌牛も公表します。